

1 校訓 自立・敬愛・探究

2 学校教育目標と重点目標

(1) 学校教育目標 『感動を創り、夢を拓く相中生』

授業や諸活動を通して、先生や仲間と共に学び合い、感動を創り出す。その感動体験を基に、自らの夢を育み、たくましく挑戦する人を目指す。

(2) 重点目標 『自ら鍛え 共に高め合おう』

- ・主体的に自分を向上させる心を育てるとともに、たくましさを身に付けさせたい。
- ・個人として＝「自ら鍛え」、集団として＝「共に高め合おう」として取り組む。具体的には、「自ら鍛え」は、生徒が個人として自ら向上心を持ち、心身共にたくましさを身につけようとする。そして「共に高め合おう」は個が集まって集団の中で、お互いに認め合い支え合うとともに、切磋琢磨しながら高め合う。
- ・「共に高め合おう」という呼びかける目標とすることで、生徒と教師が信頼関係を持ち、同じ目線で目標に取り組めるようにしたいと考えた。

3 生徒の実態

本校の生徒は総じて規範意識が高く、真面目で誠実な生徒が多い。授業を大切にしようとする姿勢が育っており、生徒はどの学年・教科においても、真面目に意欲的に授業に取り組んでいる。挨拶・清掃・歌声に誇りを持ち、生徒会活動を中心に自分たちの生活をよりよくしようとするなど、生徒の自治的活動が育ってきている。

一方で、おとなしく自分の思いをうまく表現できなかつたり、人とのコミュニケーションがとれなかつたりする生徒が増えてきている。そしてその中には友人関係がうまく作れずにトラブルを自分たちで解決できなかつたり、欠席がちになったりする生徒が見られる。また、家庭学習を取り入れた生活リズムが定着していないため、基礎的・基本的な学習内容が定着せずに、学習面であまり進まず生徒が増え、学力不振から欠席がちになる生徒もいる。そしてこれらのことが原因で不登校生徒の数が増えてきている。

4 学校経営方針

学校の願う姿は、最終的にはすべて生徒の姿として現れるものとする。目指す生徒の姿、生徒の言動が保護者、地域を安心させ、そこから真の学校への理解が始まる。生徒が、将来の夢や希望を持ち、それに立ち向かって努力していく姿、困難や挫折を経験しながらも前を向いてあきらめずに努力し続ける強い意志を持つことを願っている。これが、私たちが3年間で育てたい生徒の姿である。

(1) 学校経営目標 『生徒の自己決定力を育む教育活動の推進』

現在の中学生は、物質的には豊かな社会の中で生まれ育ち、世の中にあるものやことに対して主体的に関わらなくても、十分に生活できてしまう環境にある。したがって、いわゆる「自律（心）」が大変育ちにくい。

さらに、最近になってようやく以前の生活を徐々に戻り始めてはいるが、ここ数年間は世界中がコロナ禍の中にあり、先を見通せず霧の中を進んでいるような状況で、ストレスfulな生活を強いられてきた。

この「自律（心）」とは、自分で考えて自身をコントロールできること、自分の意志をしっかりと持って自ら定めたルールに従って行動を選択できることである。中学生にとっては、自分の人生を人任せにせず自ら決断できるようになること、車の運転に例えれば、自分でハンドルを握り進んでいくことであり、この力を育むことは彼らの人生にとって不可欠なことであると、言える。

したがって本校では、生徒一人一人に対して自己決定の場を増やす、言い換えれば教師がそういう関わりを増やすことによって、生徒の「自律（心）」を育てていきたい。そのために、私たち教職員は、生徒が自ら立てた目標に向かうよう誠実に生徒と向き合う必要がある。そして、生徒がその価値に気づき、主体的に活動に取り組むようにしなければならない。生徒は自らの自己実現を図るため、確かな目標を考え、その目標に対して向き合い達成していく方法を自分で考え、決めていくことが大切である。このような生徒の自己決定力を育む教育活動を積極的に推進したい。

(2) 目指す学校像

- ・(生徒にとって) 自己肯定感を高め、夢や希望を抱ける学校
- ・(保護者にとって) 安心してわが子を委ね、信頼できる学校
- ・(地域住民にとって) 自慢したくなる、応援したくなる学校
- ・(教職員にとって) 誇りと生きがいを持ち、働きやすい学校

5 経営の重点

(1) 教科のおもしろさを実感できる授業の実現

- ・令和5年度も昨年度に引き続き、主体的・対話的で深い学びを実現するため、各教科において、生徒が教科ごとの見方・考え方を働かせながら学ぶことを通して、その教科のおもしろさ（教科の本質）を実感できるようにしたい。この具体のイメージを共有するために、互いに授業実践を見合い、研修推進委員会を中心とした組織で深める研修を推進していく。については、外部講師（慶応義塾大学藤本和久教授他）を招聘した校内研修を設定し、授業改善を進める。
- ・授業に、生徒1人1台端末を活用する研修を積極的に進める。
- ・学習評価と授業改善について研修を継続する。
- ・生徒が自分の思いや考えを持ち表現する力を育てる授業を行う。また、各教科の基礎・基本的な内容に関しては、生徒も教師もわかるまであきらめない姿勢を貫く。

(2) 自己肯定感、レジリエンス（適応力、回復力）を育てる生徒指導の充実

- ・「生徒の耀き（よさや可能性）」を見つけ、伸ばすことを前提とした教育活動を推進する。
- ・教師と生徒の温かい信頼関係を育む中で、受容（受け入れ、認める）→対話（話を聞く、話をする）→自己決定（自分で考えさせ、決めさせる）→支援（必要に応じ力

を貸す、価値付ける)により、自ら困難を克服する力を育てるとともにレジリエンスを育てる。

- ・生徒が規範意識を高める中で、自他を尊重し互いに認め合い支え合うことで、生徒にとって安心、安全な学校をつくる。
- ・特別な支援を要する生徒に対する理解を深め、個を大切にし個に応じた支援・指導に努める。
- ・今後の学校の約束や制服等の見直しについて、生徒、保護者、地域等の意見を尊重した協議を進める。

(3) 活力、自治力、実行力を伸ばす教育活動の推進

- ・地域に誇れる学校を目指し、学校の約束等の見直しも含め、生徒が自分たちの手で自分たちの学校を創るという意識を強く持った生徒会活動を推進する。
- ・生徒の発想や思いが生き、仲間と共に力を合わせて一緒にやり遂げることができたという感動を味わう七耀祭、学校行事をつくる。
- ・「相中4つの誇り(つながる授業、爽やかな挨拶、黙働清掃、感動する歌声)」を向上させ、生徒自身が自信を持って誇り(真の誇り)ということができるまでに高める指導を展開する。
- ・七耀祭などの学校行事に向かう中で日常をどう向上させるか。また、行事で学んだことや身に付けたことを出発点にして日常をどう改善・向上させるかを考え、実践させる取組を進める。
- ・教師自身が前例にとらわれず積極的にチャレンジする教育活動の提案、推進に取り組む。

(4) 保護者、地域との連携の推進

- ・社会に開かれた教育課程実現のための「コミュニティ・スクール」4年目として、昨年度に引き続き「地域・保護者が教育課程の改善、充実に関わっていく」1年を目指す。学校運営協議会の在り方を再検討する中で、学校と地域の結びつきを強め、お互いがWINWINの関係になれるようにしていく。
- ・ホームページや学校だよりなど、教育活動を保護者や地域に情報発信し、学校の「今」が見えるように努める。
- ・学校評価等で、保護者・地域の願いを謙虚に受け止め、教育課程に生かす。
- ・職員や保護者と、学校運営協議会委員との交流をさらに増やす機会を設ける。
- ・各教科、特別活動(防災訓練、進路学習など)、総合的な学習、校内環境整備等において、どんな場面で地域の人的・物的資源を活用したいかを洗い出す。また、学校運営協議会委員や保護者等への呼びかけにより、ボランティア登録の組織作りを進める。
- ・学校と地域が連携して行う教育活動(職業体験活動、ボランティア活動、防災訓練等)を積極的に推進する。また、教育課程の実施に当たって地域の人的・物的資源を積極的に活用する。

(5) つながることのよさを感じられる小中連携の推進

小中9か年で育みたい力を「次代を切り拓く力（生きる力の基礎基本、基礎的な知識・技能、活用力、創り出す力、課題発見・解決力、多様性を受容する力、コミュニケーション力）」とするとともに、「つながることのよさを感じられる小中連携」を目指し、各校校長で組織する「推進委員会」、各校教頭を中心とした「自立部」「敬愛部」「探究部」「養護教諭部」の推進組織のもと、それぞれの部に各学校の担当が関わりながら以下のような取組を進める。（担当者は年度当初に決定）

- ・推進委員会…つながることのよさを感じられる小中連携
 - ※各校担当：校長（拡大推進委員会は校長＋教頭）
 - ※取組内容：学校教育目標の統一、小中連携構想図の作成、各校教育課程のすりあわせ、共通のきまり、目指す授業の方向性、R6年発表に向けて、小中連携のよさを教職員に浸透させる手だて等について話し合う
 - ※開催方法：各学校で開催（相良中→相良小→萩間小→菅山小→地頭方小の順）し、授業参観も行う
- ・自立部…次代を切り拓く7つの力の育成につながる児童生徒の交流活動
 - ※各校担当：キャリア教育または特別活動担当
 - ※取組内容：小学校6年生と中学校1年生の交流の推進
小学校同士の学校間の積極的な交流の推進 等
- ・敬愛部…自己肯定感の醸成を根底に、9年間で育成する力と生徒指導観を整える
 - ※各校担当：生徒指導主事・主任
 - ※取組内容：統一キャッチフレーズの挨拶運動
生徒指導観を話し合い、共通実践項目を決める 等
- ・探究部…9年間のつながりある学びと育ちを理解し合うための小中合同研修
 - ※各校担当：研修主任
 - ※取組内容：小・中学校での授業参観と合同研修
中学校体験入学における授業参観 等

(6) 教職員が誇りと生きがいを持ち、働きやすい学校をつくる

- ・教職員一人一人が研究・研鑽に努め、学び続ける。
- ・教職員一人一人が創意を發揮し、生徒のために積極的にチャレンジする教育活動を実践する。
- ・学校における働き方改革を進めるために、校務のデジタル化、部活動ガイドライン遵守など、時間外勤務の縮減に努める。
- ・「学校事務再編のための研究指定」により、学校事務の更なる業務改善（スリム化やスクラップ等）を図りつつ、教員等の業務を事務職員へ可能な限り移管し、教職員の働き方改革を進める。また、学校事務職員が学校経営の重要なスタッフとして学校経営を補佐できるような体制づくりを目指す。